

## 1-4 中国思想中国哲学

### 研究・教育活動の概要と特色

中国思想中国哲学専攻分野における研究活動は、中国の伝統文化を政治、経済、思想、宗教、歴史、文学、科学などが緊密に関係し合う有機的統合体として捉えるという認識を前提としつつ、その思想的宗教的側面を構成する諸現象の歴史的位置や普遍的意味を探究するものである。またその教育活動は、狭い意味においては、如上の研究活動を遂行するうえでの確乎とした学問的基盤を築くことを目的とし、広い意味では、中国の伝統文化に対する知的関心ないし人文学的教養を培うことをめざしつつ、いずれにしても中国古典文（いわゆる漢文）に対する読解力の向上や中国思想に関する歴史的事実および理論的特色の修得のための訓練を、その中心に据えてすすめられる。

本専攻分野の前身である中国哲学講座の初代教授武内義雄ならびに第二代教授金谷治は、文献学的思想史学的手法により、中国の戦国時代から秦漢期にいたる諸子百家の思想、とりわけ儒道両思想の展開を解明し、また第三代教授中嶋隆藏は、武内・金谷の手法を洗練させつつ、その研究対象を中国中世における儒仏道三教へと広げ、諸教の葛藤や融合の実態をあきらかにした。2013年度8月現在の教員は、南宋後半から清代中期にいたる時期の知識人の思想を三教交渉の視点から分析するとともに明代の科挙に関わる諸事象を思想史のおよび社会史的に考察する教授三浦秀一、唐・五代の禅思想を中心とした中国中世宗教思想の解明を、敦煌出土の文献などをも駆使しておこなう准教授齋藤智寛、漢代から六朝期にいたる老子解釈の歴史を探究する助教高橋睦美（2012年4月着任）の3名である。なお、2007年4月から2010年3月までは、元朝の首都である大都の都市的性格を制度史もしくは社会史的観点から検討する渡辺健哉が助教のポストに就いていた。以上の4名は、それぞれにその研究分野を異にするものの、いずれも中国学の伝統的手法に依拠しつつ研究をおこなう点では、その認識を共通させる。

このように、本専攻分野における研究・教育活動の特色は、歴代教授に一貫する思想史学的方法と、関係各人によって相異なる研究関心とから察知させられるとおり、中国古典文・現代文の読解という基礎的学力の育成・錬磨を大前提としつつも、研究に従事する者としての自主性を最大限に尊重する点に存する。学生・院生の総数は、研究室の創設以来、20名以下の数で安定しており、上記のとおりの方針のもと、少人数教育の学習環境下で研鑽を積んだ卒業生が、現在、斯界において幅広く活躍している。

## I 組織

### 1 教員数 (2013年9月末現在)

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：1

教授：三浦秀一

准教授：齋藤智寛

助教：高橋睦美

### 2 在学生数 (2013年9月末現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
6	0	1	3	0

### 3 修了生・卒業生数 (2009～2013年度)

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
09	2	0	0
10	2	2	0
11	2	2	1
12	1	0	0
13	0	0	0
計	7	4	1

\* 2013年度は、9月末までの数字

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動 (2009～2013年度)

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
09	0	1	1

10	0	0	0
11	1	0	1
12	0	1	1
13	0	0	0
計	1	2	3

\* 2013年度は、9月末までの数字

### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

手代木有兒、2009年度、清末中国における西洋体験と文明観

審査委員：教授・三浦秀一（主査）、教授・花登正宏、教授・熊本 崇  
高橋睦美、2011年度、『老子指帰』思想研究－漢魏の間における有無の言説とそ  
の展開－

審査委員：教授・三浦秀一（主査）、教授・花登正宏、教授・佐竹保子、  
教授・川合 安、准教授・齋藤智寛

馬場英雄、2012年度、嵇康の思想

審査委員：教授・三浦秀一（主査）、教授・佐竹保子、准教授・齋藤智寛

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
09	1	0	0	0	1
10	1	0	0	0	1
11	1	0	0	0	1
12	1	0	0	0	1
13	0	0	0	0	0
計	4	0	0	0	4

\* 2013年度は9月末までの数字。ただし以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
09	0	0	2	0	2
10	0	3	2	0	5
11	1	3	2	0	6
12	1	2	1	0	4
13	0	1	0	0	1

計	2	9	7	0	18
---	---	---	---	---	----

\*2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

## 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

### (1) 論文

- 高橋睦美、「『老子指帰』と王弼『老子』注における差異」、『日本中国学会報』  
(日本中国学会)、第61集、2009年
- 高橋睦美、「『老子指帰』思想再考—後漢期の生成論との比較から—」、『集刊東  
洋学』(中国文史哲研究会)、第104号、2010年
- 尾崎順一郎、「焦循の「一貫」解をめぐって」、『日本中国学会報』、第63集、  
2011年
- 豊島ゆう子、「黄宗羲の思想—劉宗周思想の受容から「自得」の重視へ—」、『集  
刊東洋学』、第108号、2013年

### (2) 口頭発表

- 高橋睦美、「漢魏六朝期における老子解釈の諸相と連関」、第163回中哲読書会(東  
北大学)、2009年7月18日
- 高橋睦美、「有無の諸相—生成論における道の記述」、東北中国学会第59回大会、  
2010年5月30日
- 高橋睦美、「漢代より魏に至る『老子』解釈の諸相と有無の論」、第165回中哲  
読書会(東北大学)、2010年6月26日
- 尾崎順一郎、「程瑤田の学問観について」、東北中国学会第60回大会、2011年5  
月29日
- 尾崎順一郎、「皖派成立史攷」、応用科学史学研究会第10回研究集会、2012年2  
月14日
- 尾崎順一郎、「江南地域における戴震経学普及の背景」、第171回中哲読書会(東  
北大学)、2012年7月21日
- 尾崎順一郎、「清代乾隆年間における江南士人の経学理念」、応用科学史学研究  
会第12回研究集会、2013年1月12日
- 尾崎順一郎、「袁枚の学問観について」、東北中国学会第62回大会、2013年5月  
26日
- 渡邊秀一、「蘇軾・蘇轍間における「道」解釈の異同について」、第163回中哲読  
書会(東北大学)、2009年7月18日

渡邊秀一、「蘇軾・蘇轍における「道」について」、東北シナ学会二月例会、2011年2月16日

宣芝秀、「伊藤仁斎の「忠恕」再考」、第166回中哲読書会（東北大学）、2010年7月23日

宣芝秀、「伊藤仁斎の人間観について」、東北シナ学会二月例会、2011年2月16日

金子由佳、「『悟真編』とその注釈者翁葆光の思想」、第168回中哲読書会（東北大学）、2011年9月30日

金子由佳、「翁葆光の『悟真編』解釈とその周辺」、東北シナ学会二月例会、2012年2月22日

豊島ゆう子、「黄宗羲の思想－劉宗周理解から『明儒学案』編纂の立場へ」、第167回中哲読書会（東北大学）、2011年8月12日

豊島ゆう子、「黄宗羲の思想－「自得」の追究と『明儒学案』の立場」、東北シナ学会二月例会、2012年2月22日

豊島ゆう子、「康熙前半における黄宗羲の思想」、東北中国学会第61回大会、2012年5月27日

劉 曉春、「道教と呉筠」、第3届華人学術交流会、2013年2月9日

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

豊島ゆう子、平成25年度日本学術振興会特別研究員

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

大学院生1名（2008年9月から2010年7月まで、中国・復旦大学）

学部学生1名（2012年9月から2013年6月まで、台湾・国立中山大学）

#### 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
09	2	0	2
10	2	0	2

11	0	1	1
12	2	1	3
13	0	2	2
計	6	4	10

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	0	0	0
計	0	0	0

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

なし

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

なし

## 8 客員研究員の受け入れ状況

2011年4月から1年間、二松学舎大学教授・田中正樹氏

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

2012年4月から半年、中国南京市・東南大学教授・許建良氏

## 10 刊行物

『集刊東洋学』（定期刊行物：東洋史・中国文学研究室との共同による中国文史哲研究会、年2回刊行）

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2009年度：

（国内学会）第58回東北中国学会大会、2009年5月30・31日

(国際学術講演会) 「晚明三教合一研究－方法論的再思考」 2009年7月2日  
(ワークショップ) 応用科挙史学研究会 (第3回)、2009年7月11日  
(国際シンポジウム) 第5回科挙制と科挙学国際シンポジウム、2009年8月  
27・28日 (北海道大学文学研究科中国化学講座との共催)  
(国際学術講演会) 「中国における性理学研究の新動向」 2009年10月16日  
(研究集会) 応用科挙史学研究会 (第6回)、2009年12月21日

2010年度:

(研究集会) 応用科挙史学研究会 (第7回)、2010年9月24日  
(研究集会) 応用科挙史学研究会 (第8回)、2010年9月25日  
(国際学術講演会) 「地域性と時代性－数年来の明清思想研究－」、  
2010年10月1日

2011年度:

(ワークショップ) 応用科挙史学研究会 (第4回)、2011年8月4日  
(ワークショップ) 応用科挙史学研究会 (第5回)、2011年8月11日  
(研究集会) 応用科挙史学研究会 (第9回)、2012年2月13日  
(研究集会) 応用科挙史学研究会 (第10回)、2012年2月14日  
(講演会) SENDAI 漢籍 SEMINAR 「東北大学における漢学」、2012年3月9  
日 (京都大学人文科学研究所との共催)

2012年度:

(研究集会) 応用科挙史学研究会 (第11回)、2012年9月18日  
(研究集会) 応用科挙史学研究会 (第12回)、2013年1月12日  
(研究集会) 応用科挙史学研究会 (第13回)、2013年3月29日

2013年度:

## 1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2009年度:

国際学術講演会 (2009年7月2日)

晚明三教合一研究－方法論的再思考 (講師: 魏月萍)

第163回中哲読書会 (2009年7月18日)

高橋睦美: 漢魏六朝期における老子解釈の諸相と連関

渡邊秀一: 蘇軾・蘇轍間における「道」解釈の異同について

第164回中哲読書会 (2009年9月26日)

金子由佳: 『悟真篇』の思想

豊島ゆう子：黄宗羲の思想

国際学術講演会（2009年10月16日）

中国における性心理学研究の新動向（講師：呉震）

2010年度：

第165回中哲読書会（2010年6月26日）

高橋睦美：漢代より魏に至る『老子』解釈の諸相と有無の論

第166回中哲読書会（2010年7月23日）

宣芝秀：伊藤仁斎の「忠恕」論再考

国際学術講演会（2010年10月1日）

地域性と時代性—数年来の明清思想研究—（講師：銭明）

第167回中哲読書会（2010年11月6日）

中島彰宏：『天主実義』における中西問答について—西士利瑪竇の立場を中心—

佐藤里奈：戴震の思想—孟子字義疏証における欲望と秩序—

2011年度：

第168回中哲読書会（2011年8月12日）

豊島ゆう子：黄宗羲の思想—劉宗周理解から『明儒学案』編纂の立場へ—

第169回中哲読書会（2011年9月30日）

金子由佳：『悟真編』とその注釈者翁葆光の思想

第170回中哲読書会（2012年3月24日）

田中正樹：蘇軾と『論語』

2012年度：

第171回中哲読書会（2012年7月21日）

高橋睦美：唐玄宗御注における「沖和」

尾崎順一郎：江南地域における戴震経学普及の背景

第172回中哲読書会（2012年9月21日）

許建良：日本の中国思想研究における『老子』と法家の関連性について

2013年度：

### 1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

本専攻分野における組織としての研究・教育活動は、研究室の構成員とりわけ大学院生各自が遂行しようとする研究の支援を第一の目的におこなわれる。その形態は、（1）本専攻分野単独のものと、（2）中国の伝統文化に対する上記「概要と特色」の項に示



した捉え方から必然的に導かれるとおり、文学研究科における中国学の隣接研究室である中国語学中国文学および東洋史学の二専攻分野との共同によるものに分けられる。その前者（１）に関しては、全国的もしくは国際的な学会での研究発表や学術誌への論文投稿、およびそれを前提とした、研究室主催の論文構想発表会を中心として、諸外国から来訪した研究者と留学生との交流をも含み、後者（２）に関しては、学術雑誌である『集刊東洋学』の刊行①、およびそれに関連する諸行事としての投稿論文の査読、雑誌の合評会などや、三専攻分野の教員等を代表とする科研費関連の研究会②、国内外の研究者を招いての学術講演会③がある。以下、過去５年間の活動を（１）・（２）それぞれについて記しつつ、点検と評価をあわせておこなう。

（１）評価対象である５年間において、全国学会である日本中国学会での本専攻分野大学院生による発表数が０回、東北中国学会での発表数が４回、と低調な状態が続いている。大学院生の数から判断すればやむを得ない側面もあるのだが、やはり、国外における学会発表を含めて、いわゆる他流試合の場を増やす必要がある。応用科挙史学研究会による研究集会は、そうしたなかでの数少ない機会だと考えられる。この研究集会は、教授三浦が中心となって組織した国際的な研究会であり、毎回ではないが研究集会には中国・台湾の研究者を招聘している。

論文の公刊に関しては、『集刊東洋学』２００９年５月発行の第１０１号から２０１３年６月発行の第１０９号までの８冊の雑誌において、中国思想分野の「論説」は９本「研究ノート」「雑纂」「書評」は７本である。そのなかで本専攻分野の大学院生の論文は２本である。院生の投稿数が少ない理由に関しては、中国への長期留学や、博士論文の執筆など、個別論文の作成までには手が回らないといった事情がある。とはいえ、自身の研究成果を発表する上で、もう少し貪欲な姿勢が見られても良いはずであり、そうした方向への指導も必要であろう。ただし、２００９年度刊行の『日本中国学会報』に院生の論考が掲載されたことは、その他の構成員にとって大いに刺戟になったようであり、２０１１年１０月刊行の同誌にも、当研究室の大学院生による論文が掲載された。

一方、海外からの留学生との交流は、近年、好調である。２００９年度後半から（中国）清華大学日本語学科および台湾大学日本語学科の学部学生が、特別聴講学生として研究室に配属になった。その前者は半年、後者は１年間、研究室の構成員と日常的な交流を持ち、学部学生に対しては異文化交流のえがたい経験となり、大学院生に対しては、語学的経験を積む良い機会となった。２０１１年度後半からは、中国政府派遣の留学生が所属し、その学生は、２０１２年４月、博士後期課程の院生となった。また、同じく４月からは、ノボシビリスク大学の学生が学部特別聴講生として、また北陸大学出身の中国人学生が学部研究生として、研究室で１年間すごした。２０１０年７月より研究室のウェブ

サイトが運用を開始したことも関連事項として附記しておく。

(2) ①『集刊東洋学』の編輯に関しては、大学院生が査読を含めて、編輯に関するすべての業務をおこなっており、そうした仕事もまたかれらの将来において大いに役立つであろう。近年は会計業務の合理化をすすめており、大学院生の貢献度は高い。②2006年夏に発足した応用科挙史学研究会による研究集会、ワークショップがそれに相当する。各会は10～20名の専門家が参加し熱心な討議が交わされた。③中国、台湾、シンガポールの中国学研究者（劉海峰、鄧洪波、李兵、魏月萍、呉震、陳雯怡、錢明、鄭吉雄、呂妙芬の各氏）、あるいは北海道大学・名古屋大学の清代学術史の専門家（水上雅晴、吉田純両氏）を招いて講演会等を開催した。

次ぎに教育活動であるが、そのなかで学部教育は、基礎的学力を身につけ、さらにそれを発展させて卒業論文の執筆へと進めるようカリキュラムを組み、また研究室独自の勉強会による補完のもと、学習効果の向上をはかっている。学部2年次生向けの基礎講読や概論の授業には、漢文の読解力を必須とする日本学やインド学等を専修する学生や、教員免許（国語）取得の必要から履修している教育学部等の学生も受講しており、文学部の他専修と同様、本専修もまた教育活動をとおして文系諸学部の学部生教育に貢献している。なお、2010年度からは、学部生向けの新しい授業として演習の時間を創設した。基礎講読での学習を終えた学生に対し、中国古典文の読解能力をさらに高めることを意図したものである。

大学院教育に関しては、博士論文の作成を目標とした論文作成指導として、各自の研究能力を向上させる演習の時間を設け、またそこでの不足を補うべく研究室主催の研究集会を定期的にひらき、教員による個別指導もおこなっている。その成果として、2011年度、ひとりの大学院生が博士の学位を取得した。そもそも大学院の後期3年を経てただちに博士学位請求論文を提出できる者がいないことは、本専攻分野の学問上の性格に関係する事柄でもあり、一概に否定的な評価は下せないのだが、六年の在学可能期間中に多くの大学院生が学位を取得できるよう、今後も可能な限り指導に努めたい。

### Ⅲ 教員の研究活動（2009～2013年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

三浦秀一「陸西星及其老子注」、『全真道与老莊学国際学術研討会論文集』、熊哲基編、華中師範大学出版社、pp.636-650、2009年

三浦秀一「明代科挙“程論”管窺」、『科挙学の形成与発展』、劉海峰編、華中師範大学出版社、pp.372-392、2009年

- 三浦秀一「明代科挙「性学策」史稿」（中国語版）、『国際科挙学研究会－第五届“科挙制与科挙学”学術研討会－報告論文集』、北海道大学大学院文学研究科中国文化論講座、pp.41-55、2009年
- 三浦秀一「明代科挙「性学策」史稿」（日本語版）、『集刊東洋学』、第103号、中国文史哲研究会、pp.41-61、2010年
- 三浦秀一「王門朱得之的師説理解及其《莊子》注」、『台日学者論經典詮釋中的語文分析』、鄭吉雄編、台湾学生書局、pp.381-417、2010年
- 三浦秀一「郷試考官林光与明代中期的副榜合格者」、『科挙与科挙文献国際学術研討会』、天一閣博物館編、上海書店出版社、pp.198-213、2011年
- 三浦秀一「副榜挙人と進士教職－明代における地方学官と郷試考官の一特徴－」、『集刊東洋学』、第106号、中国文史哲研究会、pp.41-60、2011年
- 三浦秀一「王門朱得之の師説理解とその莊子注」、『中国古典の解釈と分析』、佐藤鍊太郎編、北海道大学出版会、pp.337-365、2012年
- 三浦秀一「王門歐陽徳とその会試程文」、『哲学資源としての中国思想』、吉田公平教授退休記念論集刊行会編、研文出版、pp.116-138、2013年
- 三浦秀一「担任郷試考官的進士教職」、『科挙文献整理与研究』、陳文新・余来明主編、武漢大学出版社、pp.169-176、2013年
- 三浦秀一「明代中期の「性理大全」－東北大学図書館蔵本の書誌学的意義に寄せて－」、『集刊東洋学』、第109号、中国文史哲研究会、pp.63-75、2013年
- 齋藤智寛「禅宗“心地”思想的演變－兼談《壇經》和《曹溪大師伝》的心性論」、『仏教与中国伝統文化－楊曾文先生七秩賀寿文集』、宗性編、中国社会科学出版社、pp.196-210、2009年
- 齋藤智寛「臺のない鏡－『六祖壇經』呈心偈考－」、『集刊東洋学』、第101号、中国文史哲研究会、pp.43-62、2009年
- 齋藤智寛「禅宗と仏舍利信仰－『宝林伝』摩拏羅章に見える阿育王塔説話を手掛かりとして－」、『集刊東洋学』、第104号、中国文史哲研究会、pp.41-60、2010年
- 齋藤智寛「荷沢神会の見性論とその変容」、『三教交渉論叢続編』、麥谷邦夫編、道氣社、pp.193-217、2011年
- 齋藤智寛「無臺明鏡照心地：《六祖壇經》的偈頌及其心性論」、『仏教文献与文学』、仏光文化事業有限公司、pp.60-91、2011年
- 齋藤智寛「法相宗の禅宗批判と真諦三蔵－敦煌文書スタイン二五四六『妙法蓮華經玄贊鈔（擬）』と『真諦沙門行記』－」、『真諦三蔵研究論集』、京都大

- 学人文科学研究所編、pp.303-344、2012年
- 齋藤智寛「仏法の埋没—夾山善会—の宗風と法統意識—」、『集刊東洋学』、  
第107号、中国文史哲研究会、pp.48-67、2012年
- 渡辺健哉「『永楽大典』所引の『元史』について」、『13,14世紀東アジア史料通  
信』、第9号、pp.9-16、2009年
- 渡辺健哉「元代科挙的《策問》与《対策》」、『考試研究』、第5巻第2期、pp.100-114、  
2009年
- 渡辺健哉「科挙制よりみた元の大都」、『「宋代中国」の相対化—宋代史研究会  
研究報告集第9集』、汲古書院、pp.183-210、2009年
- 渡辺健哉「元代科挙礼儀小考—以《永楽大典》所引《経世大典》為線索—」、『国  
際科挙学研討会—第五届“科挙制与科挙学”學術研討会—報告論文集』、北  
海道大学大学院文学研究科中国文化論講座、pp.215-224、2009年

#### 1-2 著書・編著

- 齋藤智寛、大野晃嗣、陳青、渡辺健哉共編『東北大学附属図書館所蔵「中国金石文  
拓本集」附：関連資料』、私家版、2013年

#### 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

- 齋藤智寛「温にして厲—『東アジアの宗教と文化』を読む』、『東方』、第340  
号、東方書店、pp.28-30、2009年
- 齋藤智寛「從客觀史実到所描写的事实—日本学者禅学研究的歴史文献学方法』、『漢  
語仏学評論』、第1輯、上海古籍出版社、pp.115-131、2009年
- 齋藤智寛「石碑拓本の世界」、『東北大学広報誌—まなびの杜』、第55号、裏表  
紙、2011年
- 齋藤智寛『生活禅のすすめ』第15~20章、山喜房仏書林、pp.305-412、2012年（浄  
慧『生活禅鑰』生活読書新知三聯書店、2008年、の一部和訳）
- 高橋睦美、書評山田俊著『宋代道家思想史研究』、『集刊東洋学』、第109号、  
中国文史哲研究会、pp.98-112、2013年

#### 1-4 口頭発表

- 三浦秀一「明代科挙策題初探」、応用科挙史学研究会第2回ワークショップ、2009  
年4月1日（東北大学）
- 三浦秀一「明代科挙関連文献に関する二、三の「新」知見」、東洋大学中国学会、

- 2009年7月25日（東京・東洋大学）
- 三浦秀一「明代科挙「性学策」史稿」、第五回科挙制与科挙学研討会、2009年8月27日（札幌市・北海道大学）
- 三浦秀一「《天一閣蔵明代科挙録選刊・会試録》試補」、2009年11月3日（中国廈門市・廈門大学）
- 三浦秀一「明末清初期《四書大全》改訂的潮流与世風之变化」、第三届中国經学国際學術研討会、2009年11月8日（中国廈門市・白鷺洲大酒店）
- 三浦秀一「再談策論の魅力」、応用科挙史学研究会第6回研究集会、2009年12月21日（東北大学）
- 三浦秀一「明代中期の郷試考官と「副榜举人」」、応用史学研究会第7回研究集会、2010年9月24日（東北大学）
- 三浦秀一「郷試考官としての林光と王守仁」、応用史学研究会第8回研究集会、2010年9月25日（東北大学）
- 三浦秀一「郷試考官林光与明代中期的副榜合格者」、科挙与科挙文献学国際學術研討会、2010年12月19日（中国寧波市・寧波大酒店）
- 三浦秀一「明朝嘉靖期の科挙と王門欧陽徳の学問」、東北シナ学会5月例会、2011年5月14日
- 三浦秀一「郷試考官に招かれた「進士教職者」」、応用科挙史学研究会第4回ワークショップ、2011年8月4日（東北大学）
- 三浦秀一「程文の代作と「二業合一」論」、応用科挙史学研究会第5回ワークショップ、2011年8月11日（東北大学）
- 三浦秀一「担任郷試考官的「進士教職」」、第八届科挙与科挙学国際學術研討会、2011年9月25日（中国武漢市・武漢大学）
- 三浦秀一「王門欧陽徳的学問及其会試程文」、国際陽明学研討会、2011年10月31日（中国余姚市・余姚賓館）
- 三浦秀一「湛甘泉的二業合一論及其影響」、書院文化的伝承与開拓、2011年11月5日、（中国湖南省市・湖南大学）
- 三浦秀一「古籍の帰還もしくは孝経の蒐集」、SENDAI 漢籍 SEMINAR「東北大学における漢学」、2012年3月9日（東北大学）
- 三浦秀一「性理大全書受容史研究—その序説と三つの断章」、応用科挙史学研究会第11回研究集会、2012年9月18日（東北大学）
- 三浦秀一「明末清初時期《性理大全書》的伝播与接受」、清代理学国際研討会、2012年10月30日（シンガポール・国立シンガポール大学）

- 三浦秀一「人法兼任の微意—明代中期後半の科挙と督学、および思想史」、第 62 回東北中国学会大会、2013 年 5 月 25 日（盛岡市・岩手大学）
- 三浦秀一「試論万曆人士的“真假”観—以文人屠隆的精神生活為例—」、「明清之際的精神与思想世界」国際学術研討会、2013 年 8 月 23-26 日（中国河南省・嵩陽書院）
- 齋藤智寛「仏性を見るということ—唐代禅宗の実践」、第四届中日仏学会議、2010 年 10 月 24 日（中国北京市・中国人民大学）
- 齋藤智寛「仮託於玄奘の偽経《大辯邪正経》初探：兼論其与禅宗思想的關係」、第四届玄奘国際学術研討会、2011 年 10 月 4 日（中国偃師市・偃師賓館）
- 齋藤智寛「石頭一枝—夾山善会—門の思想と祖師の形象—」、第 82 回禅学研究会学術大会、2011 年 11 月 26 日（京都市・花園大学）
- 齋藤智寛「光孝寺、南華寺の慧能關係碑文と『六祖壇経』—空間化されるテキスト—」、第 4 回空間史学研究会、2011 年 12 月 1 日（東北大学）
- 齋藤智寛「ふみといしぶみの六祖慧能—常盤大定旧蔵拓本コレクションを中心として—」、SENDAI 漢籍 SEMINAR「東北大学における漢学」、2012 年 3 月 9 日（東北大学）
- 渡辺健哉「元代科挙儀礼小考—『永楽大典』所引『経世大典』をてがかりに—」、応用科挙史学研究会第 2 回ワークショップ、2009 年 4 月 1 日（東北大学）
- 渡辺健哉「元代の科挙儀礼」、比較都市文化史研究会・第 121 回宋代史談話会、2009 年 6 月 13 日（大阪市・大阪市立大学）
- 渡辺健哉「元大都的宮殿建設」、紀年元大都国際学術研討会、2009 年 7 月 29 日（中国北京市・蟹島綠色生態度假村）
- 渡辺健哉「元代科挙礼儀小考—以《永楽大典》所引《経世大典》為線索—」、第五回“科挙制と科挙学”国際シンポジウム 2009 年 8 月 27 日（札幌市・北海道大学）
- 高橋睦美、「唐玄宗御注における「沖和」」、第 171 回中哲読書会、2012 年 7 月 21 日（東北大学）

## 2 教員の受賞歴

なし

## IV 教員による競争的資金獲得（2009～2013 年度）

### （1）科学研究費補助金

2009 年度 :

三浦秀一「思想史的社会史的史料としての科举答案に関する基礎的研究」(研究代表者、210 万円(直接経費))

2010 年度 :

三浦秀一「科举文献による明代中国の思想史と社会史」(研究代表者、380 万円(直接経費))

2011 年度 :

三浦秀一「科举文献による明代中国の思想史と社会史」(研究代表者、480 万円(直接経費))

齋藤智寛「『壇経』の再発見写本を中心とした六祖慧能関係資料の文献学的思想史的再検討」(研究代表者、220 万円(直接経費))

2012 年度 :

三浦秀一「科举文献による明代中国の思想史と社会史」(研究代表者、390 万円(直接経費))

齋藤智寛「『壇経』の再発見写本を中心とした六祖慧能関係資料の文献学的思想史的再検討」(研究代表者、130 万円(直接経費))

## (2) その他

2009 年度 :

齋藤智寛「東北大学附属図書館蔵の拓本資料の基礎的研究」(東北大学総長裁量経費・若手研究者萌芽研究育成プログラム、200 万円)

2010 年度 :

齋藤智寛「東北大学附属図書館蔵常盤大定収集拓本の研究と公開」(東北大学文学研究科研究科長裁量経費、30 万円)

2012 年度 :

齋藤智寛「東北大学附属図書館蔵「中国金石文拓本集」写真帳出版事業」(東北大学文学研究科研究科長裁量経費、30 万円)

2013 年度 :

三浦秀一：台湾・蔣経国国際学術交流基金「国際合作研究計画」(代表・呂妙芬、補助金総額 200 万台湾ドル) 研究分担者

## V 教員による社会貢献（2009～2013年度）

- 三浦秀一：東北大学オープンキャンパス文学部公開講義、2012年8月31日、東北大学川内北キャンパス
- 三浦秀一：東北大学進学説明会 in 札幌、2013年6月16日、さっぽろ芸術文化の館
- 三浦秀一：東北大学「学部学科ガイダンス」、2013年6月20日、秋田県立秋田南高等学校
- 三浦秀一：東北大学オープンキャンパス文学部紹介、2013年8月30日、東北大学萩ホール
- 齋藤智寛：東北大学大学院文学研究科市民のための公開講座「第5期・齋理蔵の講座」講演、2012年8月4日、丸森まちづくりセンター
- 齋藤智寛：みやぎ県民大学「人間理解の方法論」講演、2012年10月6日、東北大学
- 高橋睦美：東北学院大学「新時代における日中韓周縁域社会の宗教文化構造研究プロジェクト」公開講演会講演、2012年7月14日、東北学院大学

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2009～2013年度）

- 三浦秀一：  
中国文史哲研究会（常任編集顧問）  
東北中国学会（幹事）  
日本中国学会（評議員・将来計画検討委員会委員）  
日本道教学会（理事）  
東方学会（2011年度から学術委員）
- 齋藤智寛：  
中国文史哲研究会（常任編集顧問）

## VII 教員の教育活動

### （1）学内授業担当（2013年度）

#### 1 大学院授業担当

- 三浦秀一：  
1学期：中国思想中国哲学研究演習Ⅰ（清代前期四書学研究）  
：中国思想中国哲学研究演習Ⅲ（中国思想研究上の諸問題1）  
2学期：中国思想中国哲学特論Ⅱ（明代性理学史研究）



：中国思想中国哲学研究演習Ⅳ（中国思想研究上の諸問題 2）

齋藤智寛：

1 学期：中国思想中国哲学特論Ⅰ（唐代宗教思想史における禅宗の実践論）

：中国思想中国哲学研究演習Ⅲ（中国思想研究上の諸問題 1）

2 学期：中国思想中国哲学研究演習Ⅱ（『道德真経玄德纂疏』研究）

：中国思想中国哲学研究演習Ⅳ（中国思想研究上の諸問題 2）

加藤千恵（非常勤講師・立教大学）：

集中講義：中国思想中国哲学特論Ⅲ（内丹をめぐる術の思想史）

## 2 学部授業担当

三浦秀一：

1 セメ：人文社会総論（5月1日）

3 セメ：中国思想概論（宋代思想概説）

：中国思想基礎講読（中国思想文献講読・初級1）

4 セメ：中国思想概論（中国近代前期思想史概説）

：中国思想基礎講読（中国思想文献講読・初級2）

5 セメ：中国思想演習（清代前期の四書学）

6 セメ：中国思想各論（性理大全書の歴史）

齋藤智寛：

5 セメ：中国思想各論（唐代宗教の実践論）

：中国思想演習（『論語』注釈書原典読解）

6 セメ：中国思想演習（『老子』注釈書原典読解）

：中国思想演習（清朝学術史原典読解）

加藤千恵（非常勤講師・立教大学）：

集中講義：中国思想各論（中国の長生思想—方術から内丹へ）

## 3 共通科目・全学科目授業担当

### （2）他大学への出講（2009～2013年度）

三浦秀一：

2009年度（宮城教育大学）、（東洋大学）

2010年度（九州大学）